

# 十勝清水町から

清水町担い手支援アドバイザー

上谷 明美

春の十勝は、日も長くなり、毎日の農作業も忙しくなりました。

春から暖かい日（暑い日）も多く、蒔きつけ作業も無事に終わりホッとしております。

ただ今年は風が強くて雨が少なく、干ばつや強風による作物への被害がでていきます。

毎日吹く強風で移植したビートが叩かれて植え直しをしたり、生えたばかりの小豆がやられて他の豆類を蒔き直したり、雨が少なく種をまいても発芽せずと色々な被害がでていきます。干ばつや季節はずれの高温が多くなっていて異常気象を実感しています。

一方、本州では集中豪雨や春先の低温などで農産物に多くの被害がでました。四月下旬にはスパーに並ぶキャベツが一玉五〇〇円近くしていて驚きました。地震も多く、あちこちの火山が噴火したりしています。これ以上大きな災害がおきないで欲しいと願う毎日です。

今回は四季それぞれに書き溜めていたエッセーを……。

## ◆「あきつめが肝心？」

まずい。非常にまずいのだ。

小学校の入学式用に準備した息子のズボン、息を止めないとボタンがはまらない。

最近、食欲旺盛でぼつちやりしてきたわが家の長男、四月の入学式用にと友人に借りたフォーマルウェアがきついののだ。末っ子だし一度しか着ないのにわざわざ買うのはもったいないと、体格の良い男の子をもつ知人を捜して、やつと見つけた一着なのに……。シャツやジャケットはびつたりでなかなか似合うのにズボンだけがきついのだ。

ふと先日、同じくらい太めの息子を持つ友人が「大きい子専用のサイズがあつて、びつたりのズボンを買ってきた」と言っていたのを思い出すが（子供は日々成長するもの。入学式までには数センチ

## 上 谷 明 美(かみや あけみ)さん



農業(十勝清水町)

昭和43年生まれ 福島県出身

14年前、憧れの北海道に嫁ぐべく婚活。

見事に射止めた(?)夫と夫の両親と子供3人の7人家族で小麦、ビート、小豆、金時豆、かぼちゃ、にんにく、スイートコーンなど36haを耕作しています。

趣味:刈払い機での草刈り…ホームセンターに行くと刈り払い機が気になって仕方がありません。



お腹を凹ませるくらい簡単だろう…とズボンに体を合わせる道を選択した。実は私のフオーマルウェアも次女の入学式で着用したものが全く着られず、こつそり新調したので予算的にも息子のズボンは買わずに済ませたいのが本音でもある。

入学式までの間、低カロリーの和食で息子を痩せさせようと計画しているのに「今日も給食を二回おかわりしたよ。」とニコニコ笑顔で報告されると、(あきらめて 売り切れる前にズボンを買いに行きなさい)と天からの声が聞こえてくる。

### ◆「畑の石拾い」

わが家の春の大仕事に畑の石拾いがある。十勝川に近いわが家の畑にはゴロゴロと石が湧くように出てきます。作物を植える前に石を拾っておかないと作物の生長の妨げになったり、農機具が壊れたりと色々な弊害がでてくるのであるべく取り除かなくてはいけません。

石をひとつひとつ拾って肥料の空き袋に詰め、それを運び出すまでの仕事です。腰を曲げて拾うので、なかなかの重労働です。拾っても拾ってもいくら減らない気がして嫌になる時もあります。(この辺りまで大きな川だったのかな)など色々な空想をしながら楽しんでいきます。ある時はこぶし程の大きさの石を見つけて手で掘り出そうと周りをかいてみるがなかなか掘り上がらない。家にもどリスコップをもって再度チャレンジするが出てきた表面は庭石ほどの大きさに。私だけではどうすることも出来ず夫とトラク



ターに緊急出動を要請する。

トラクターを使いやつと掘り出せた時はなんとも云えない達成感がある。

石が減り、きれいになった畑を見ると今年も作物の生長を願い頑張ろうと力がわいてくるが土の下ではまだまだ沢山の  
大・小の石たちが出番を待つてニンマリと笑っている様な気がする。



#### ◆「元気に泳げ、鯉のぼり」

今年も五月の空に元気いっぱい五匹の鯉のぼりが泳いだ。

買った当初は、やれ雨が降った、風が吹いたと鯉のぼりが痛まぬように大事にしまいかんざしでいた。しかし甘えん坊でしゃきつとしない息子を見て、雨にも風にも負けない強い子になって欲しいと子供の日まで揚げっぱなしにする事にした。そうなるか強風のおかげで毎年、色々な

事が起きる。

二年目には矢車が吹っ飛んだ。去年は一匹をのぞいて家族全員が行方不明になってしまった。あちこち捜すと、藪に隠れる者、玄関前に寝そべる者、かなり遠くの畑まで飛んで行った者。川に頭を突っ込んで今から泳ごうとしている者もいた。

普段から黒い真鯉はお父さん、赤い緋鯉はお母さん、大きい順から青は長女、オレンジが次女、緑が長男と当てはめていただけに、一匹だけしつかりと残った赤い母鯉の姿に私を重ねて、「やつぱりしぶとい」と家族全員に納得されてしまった。

今年こそ無事に子供の日を迎えられる…:と思っていた五月四日。お父さん鯉がまたしても脱走した。関係ないと思いつつも夫に「何か不満でもあるのかい？」とつい聞いてしまった。さて肝心の長男だが、こちらも鯉と同様にあつちこつちチョロチョロするが、曲がった事

は大嫌いな性根のすわった男に育っている。

### ◆「跡継ぎ」

結婚して十三年。三人の子宝に恵まれた。

長女、次女と女の子が続き、三人目を妊娠した時は「女の子、男の子どちらでも」と言いながらも家族みんなが、いや私自身も次こそは男の子を…と秘かに願っていた。

今年で八歳になった息子。義父や夫の言葉の端々に四代目への期待が伺える。新しい農機具を買う理由の一つが「耕平のためにそろえようと思つて」であるが十数年先に息子が就農したとしても新品のトラクターもおんぼろになっているはず。なにせ息子に買ったはずのトラクターは春も秋もわが家の主力選手として頻繁に使われているのだから…。肝心の息子はトラクターにはさほど興味もない。

息子の友達の中にはすでにトラクターや作業機のメーカーや名前を完璧に覚えている子どももいる。小学生になると本当にトラクターを運転する子もいるらしい。そんな姿を見ればじじもばばも農機具展示会に行くたびに何万円もするトラクターのおもちゃやツナギを跡つぎ候補の孫に買つてしまう心境もよくわかる。

畑仕事にそつぽをむくわが家の息子を見ながら（私も夫も子供の頃はどちらかといえば農作業の仕事をしなかつたのに今こうして農家をしているのだから…）とやはりどこかで期待をしている私がいる。

あとはプレッシャーをかけず、さりげなく。

